

特別講演概要

演 題 「知的創造の作法」

講 師 山梨県立図書館館長 阿刀田 高 氏

講演内容

小説家としてたくさんの短編小説を書いてまいりました。私の作品はアイデア・ストーリーなどと呼ばれ、なにかしらユニークなアイデアをもとにして創っているケースが多いのです。その方法は私自身、長いあいだ小説を書くときにだけ役立つものとばかり考えてきましたが、どうもそうではないらしい。いろいろな知的創造と関わりがあるようです。

それが科学の発想に役立つかどうか、勝手なお話をさせていただきます。たとえば、幽霊って何だろう？書斎のつれづれに対象を分析したことがあります。幽霊は、まず見るもの、実際に見るかどうかはともかく圧倒的に視覚に関わるものです。しかし、聞く幽霊もある。カランコロンと足音が聞こえたりして……。触る幽霊もあります。夜のタクシーでふと隣の席に、とか。すると人間には五感があるのだから嗅ぐ幽霊？味わう幽霊はどうか、と発想を広げていきます。二つとも作品としました。ほかにもダイジェストの作り方、プレストーリーミング、アイデア・ノートの勧めなど、私の方法を楽しく語ります。

講師経歴

昭和10年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部フランス文学科卒業後、国立国会図書館で司書として11年間勤務。図書館勤務中から執筆活動を続け、昭和53年『冷蔵庫より愛をこめて』でデビュー。昭和54年『来訪者』で第32回日本推理作家協会賞、同年短編集『ナポレオン狂』で第81回直木賞受賞。平成7年『新トロイア物語』第29回吉川英治文学賞受賞。その他、『短編小説のレシピ』『旧約聖書を知っていますか』など著書多数。最近の著作に『アンブラッセ』（文藝春秋 2015年1月）、『地下水路の夜』（新潮社 同年4月）、『オトナの言葉の愉しみ方』（三笠書房 2016年5月）、『妖しい関係』（幻冬舎文庫 2016年8月）がある。

国語政策への寄与などに対して平成15年紫綬褒章、平成21年旭日中綬章受章。平成19年から平成23年まで日本ペンクラブ会長、平成26年4月から新田次郎記念会理事長。

平成24年4月、山梨県立図書館館長に就任。